


会員プロフィール物語

テーマ	NPO法人建設技術監査センター創設10周年記念に寄せて	
記入年月日	平成29年4月30日	
氏名	大槻 桂三（おおつき けいぞう）	
技術士資格	機械部門	
他の資格	生産士一級	
自己紹介		
<p>1. 出身地・生年 京都府福知山市（昭和13生まれ）</p> <p>2. 現住所 東京都東大和市</p> <p>3. 学歴</p> <p>実家は福知山城のすぐ下にあった城下町にあり、そこで生まれ育った。福知山城は明智光秀が築城した有名な城である。私の御先祖様は栗城の城主で「大槻佐渡守時春」と言って、近くにその山城跡が残っており、明智光秀時代の殿様であったらしい。</p> <p>近くには、大きな由良川が流れており、子供の頃は水量も多くて清流であった。夏休みになると、ほとんど毎日のように由良川に行き行って泳いだり釣りをしたりして真っ黒になって遊んでいた。</p> <p>実家の前が幼稚園で、幼稚園が終わるといったん家にかばんを置きに帰り、すぐ幼稚園に戻って夕方まで遊んでいた。</p> <p>小学校までは5分ぐらい、中学校までは10分ぐらい、高校までは30分ぐらいと歩いて通学でき、子供時代の小さい時から大きくなるにつれて、学校がだんだん遠くなるという恵まれた環境で育ち、のんびり育ったせいか、K大学を目指したが2浪もして合格できず、大阪で受験することができた武蔵工大にやっと入れていただいた。</p> <p>大学生時代は、大学の近くを流れている多摩川沿いに4年間下宿をしていた。1年生から3年生までは、武蔵工大でまじめに勉強していたが、4年生になると卒論の研究で東工大に通うようになった。等々力駅から自由が丘駅で乗り換え、大岡山駅まで通学した。最初は問題なかったのだが、慣れてくると自由が丘駅で途中下車するようになり、遊びを覚えてしまった。3年生までは暗い学生生活だったが、4年生になると、やっと人並みの学生生活を送ることができるようになって、良かったと思っている。</p> <p>東工大では、転位歯車の大家であった「中田 孝」教授の研究室で卒論の研究をやらせて頂き、大変勉強になった。</p> <p>就職先は、学校推薦で「日立製作所」に内定した時、中田先生から「日立」に行くのなら、新しい分野の「半導体関連」の仕事に将来性があると勧められたので、当時半導体の知識もなく、あまり深く考えないで入所時に第一志望にしておいたら、希望通りに半導体工場に配属された。これが一生「半導体」と付き合う破目になったきっかけである。途中で迷いもあったが、今となっては良かったと考えている。</p> <p>人との出会いは不思議な縁であり、このようなことは現在まで何度も経験した。「人との関係は大事にしたい」と考えている。</p>		

武蔵工業大学（現 東京都市大学）工学部機械工学科卒（昭和 38 年 3 月）

4. 職歴

昭和 38 年 4 月 1 日付で日立製作所に入所し、新入社員全員が 2 か月間は日立製作所発祥の地の茨城で集合教育を受け、6 月 1 日に配属先の発表があった。私は第 1 志望の半導体工場に配属され、所在地の東京都小平市にある独身寮に入寮した。

当時、半導体は新しい技術でダイオードとかトランジスタ等しかなく、日立でも最初は「中央研究所」内で半導体の研究が進められていて、「中研」内に「トランジスタ研究所」が建設され、その中で「トランジスタの生産」が始まったが、それが発展拡大し、近くに工場が出来て「武蔵工場」となった。小生はこの「武蔵工場」に配属された。

新しい工場では、まだ世の中にない製品を生産するという仕事で、生産設備の開発を行った。当時のトランジスタは、若い女工さんが顕微鏡を覗きながら手作りする厳しい作業であったから、彼女たちが短時間に如何に多くの製品を作れるようにするか機械化・自動化を図るのが小生の主な仕事でした。

その後は、生産ラインも自動化が進み、色々な自動機が開発され無人化される方向になり、作業員も少なくなっていった。新しい分野なので、ちょっとした発明も前例がなく、特許になり易かった。100 件以上の特許申請をして、会社に貢献することができた。年末には特許賞としてボーナス分ぐらいの賞金を頂いたので、ボーナスを 2 度頂いたような感じであった。

武蔵工場に勤務していた 36 年間（'63～'99）は、主として半導体製品（TRS 時代から VLSI 時代）に関係する仕事だけしかやってこなかったもので、'半導体バカ'と言われるほど半導体以外のことについては、恥ずかしながら全くの素人である。

定年退職後は、大槻技術士事務所を開設（2000 年）し、現在まで技術コンサルタントとして色々な業務を体験してきた。開設当初は色々個人的に営業活動をしたが、うまく仕事には結びつかなかった。しかし、ボランティア活動で知り合った人脈からの紹介で仕事を頂くことがあった。ボランティア活動そのものには、あまりメリットはないが、思わぬところでお世話になることを体験した。このように幅広い人脈が大切であることを実感した。

この間に、現役時代の専門以外の環境マネジメントシステム審査委員資格を取得し、知的財産権取引育成実務研修も終了した。その他、東京都大学管理本部の産学公連携コーディネータや世田谷区産業振興公社で機械関係の技術アドバイザーを務め、並行して中小企業の技術コンサルタントもやってきた。また、10 年前からは、当センターでお世話になっており、専門分野とは畑違いの建築関係の技術監査を手掛けるようになり、今までとは異なる分野の方々との交流も生まれ、生き甲斐を感じながら活動できるようになった。

定年後は、日立時代の狭い範囲の交流関係に比べ、幅広い学会や業界の方々と交流が出来て貴重な体験をすることができ、大変有意義な期間であった。

これからの人生も、現在の仕事を続けながら、地域社会のボランティア活動など生涯現役で頑張りたいと考えている。

自身の技術内容

1. サラリーマン時代の技術内容

日立製作所に機械屋として入所したが、奇しくも半導体製品を製造する工場に配属され、生産技術の仕事を担当した。半導体のハの字もわからない状態からスタートしたが、「門前の小僧習わぬ経を読む」の通り、独学で半導体技術を身に就けていった。主な仕事は、機械屋ですから生産設備の開発であり、当初世の中に無い技術を自身で開発しなければならず、苦勞も多かったが楽しくもあった。新しい分野の技術開発は前例がないので、特許も取得し易かったというメリットがあった。

半導体の生産についての技術力は、現役時代に培われてきたので自信があるが、半導体技術は日進月歩であるから、現在の状況に対しては、残念ながら十分な技術的対応力はないと考える。

2. 現在の技術内容

自分の能力としての半導体技術については、サラリーマン時代のレベルからあまり進歩していないので、現在の世の中の技術レベルにあるとは到底期待できない。

よって、残念ながら現在の技術レベルを語る内容がない。

当センターでの業務

1. 入会の動機

柏門技術士会で知り合った五艘理事長のセンター創設理念に感銘を受け、設立時から入会して、監理技術者としての監査委託業務を実施し現在に至っている。

現役時代は半導体関連の技術開発に没頭していたので、建築関係については全くの素人でもあり、上手く業務が追行出来るかどうか当初は心配であったが、「監理技術者講習」のテキストで猛勉強し、ある程度の監査委託業務を理解出来るようになった。特に機械設備工事については、定年退職後の各種業務で修得した経験を生かして監査できるようになった。

2. 過去の実績

千葉県の各市役所・町役場や神奈川県相模原市など、公共事業工事の機械設備関係担当で、技術監査を年2～3回のペースで実施してきた。

更に、市町村への技術支援として、プロポーザルデザインビルド（PDB）方式で庁舎・小学校などの建築プロジェクトの支援を行っている。具体例として、一宮町新庁舎建設工事及び長南町小中一貫校建設工事を手掛けてきた。

当センターでの活動の意義

近年、企業の社会的責任（CSR）が重視されるようになり、法令遵守・環境改善努力・地域社会への貢献などが求められるようになった。

建設工事の施工にあたっては、「建設業法」で、特定建設業者が発注者から直接建設工事を請け、元請けとなった場合には、下請け業者が「建設業法」、「建設基準法」、「労働基準法」などの法令に違反しないよう指導する務めがある。

また、環境問題は、今や地球的規模にまで広がり、全人類が挙げて解決していかななくてはならない課題であり、監理技術者は常に問題意識を持ち、その立場で主導的な役割を果たすべき責務がある。

一方、地域社会の貢献では、監理技術者は地域の建設業を支え、地域のインフラ整備を行うリーダーとしての自覚を持って業務に努める必要がある。

したがって、我々監理技術者は「建設業法」をはじめ、「労働安全衛生法」、「建設リサイクル

法」、「廃棄物処理法」等々、これらの法令の規定をよく理解し、法令遵守に努めつつ、その業務を誠実にやり、今まで培ってきた技術力で社会貢献するという意義がある。

伝承したい事項

「座右の銘」として、日頃から心がけている事項は2つある。

① 「人間万事塞翁が馬」（禍福は糾える縄の如し）

良いことがあったと喜んでいても、それが悪くなることもあり、また逆に悩んでいることが良くなったりするので、些細なことで一喜一憂することなく、大らかな気持ちで生活する事が大切である。

② 「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

何事も一生懸命やっていれば達成することが出来る。達成しないのは、やろうとしないからである。何事もやる意欲が大事である。

「私のモットー」

「人との出会い」を大切にしたい。今まで色々な人々にお会いして、大変お世話になった。もし、これらの出会いがなかったならば、小生の人生も貧しいものになっていたと考えられる。今までお世話になった人々に、大いに感謝したい。

以上